



## 設立50周年を迎えて

### 倶知安町防火管理者連絡協議会 会長石本 要

遡ること、昭和44年10月17日に当町で誕生した「倶知安町防火管理者連絡協議会」が、今年で設立50周年という記念の年を迎えることが出来たことに、日頃より防火管理者としてご尽力されております会員の皆様、さらにいつも防火・防災活動に適切なお指導、ご助言をいただいております消防関係者各位のご支援、ご協力に心より深く感謝とお礼を申し上げます。

「自分の施設から決して火を出さない」をスローガンに、74名の会員でスタートした本協議会も、歴代会長の南河幸治氏、中井宏治氏、伊井富雄氏、追立正夫氏らのリーダーシップの元、現在では100施設を超える会員数になり、毎年活発に研修会等の活動を展開いたしております。

我々防火管理者は、火災予防はもとより、現在では「想定外」が「今、まさに想定どおり」の頻発する災害に対して、火災・災害予防の最前線機関としての関係機関と連携を図りながら、会員の意識啓発、研修会を通じ、最新の知識・技術の習得、互いに切磋琢磨し、会員の事業所、学校、施設等の利用者様、スタッフ・職員のみならず地域の皆様の安全をも守るべく研鑽と意識づけを心がけていかなければと思っております。

さて現在、世界中のスキーヤーが「世界一のパウダースノー」目指してわが町倶知安のみならずニセコの各スキー場に押し寄せています。そのリゾート地域での多くの施設、そしてその施設のみならず、各宿泊・飲食・あらゆるサービス業の各施設に働く多くのスタッフが寝泊まりするアパート、シェアハウスも町内でものすごい建設ラッシュとなっています。世界中から訪れる観光客、スタッフの「命を守る」という仕事は関係機関のみならず我々防火管理者の大事な務めです。「安心・安全な町・スキー場づくり」に対して一層の地域社会の防災の中核として、防災・災害予防の重要性を会員相互に認識し、文化・思想の違いもあるとは思いますが外国人オーナー、スタッフと一緒に活動してまいります。

最後に、防管50周年記念誌にご寄稿お願いし快くお引き受けいただきました皆様と編纂にご苦勞いただいた署員の皆様に感謝申し上げます、本協議会50周年記念の挨拶といたします。